

第5章 スタンション

1. スタンションの概要と特徴

スタンションは、牛を牛舎内やパドック、放牧地で係留する設備であり、牛の首を挟み込む道具をいう。

肉用牛経営の多くは群飼管理であるので、一度に多くの牛を係留するような場合には連動スタンションが効果的である。牛の頭がスタンションに入った際に止め金が機械的に働いて自動的に牛を係留できる。

あらかじめ飼槽に少量のエサを配っておいて、集合した牛が飼槽内のエサを求めて頭をスタンションに入れるとその瞬間にロックされる。この係留作業を一人でできるのが連動スタンションの特徴である。

放牧場でこのような牛群捕獲の省力作業を可能にするには、放牧開始前に牛群をエサと連動スタンションに馴致しておく必要がある。

2. 連動スタンションのメリット

連動スタンションは飼料給与や繁殖などの管理作業を飛躍的に軽労化できるものでメーカーによって種々のタイプが販売されている。

まず、飼料給与時にエサに対する牛の採食競合を防止できる点である。飼槽から牛が自由に摂食できる場合は、牛社会では社会的順位（強弱の順位）が得意なので、強い牛がそのエサを独占する傾向が強いが連動スタンションによって競合を緩和することができる。エサ食いが均等になれば繁殖牛の栄養度を管理しやすくなり、繁殖成績も向上する。

次に、連動スタンションは、牛群全体、あるいは群内の特定牛を捕獲するのに極めて便利で効果的な点が挙げられる。特に、種付け、妊娠鑑定、予防注射や治療をしたい場合に極めて容易に保定できる。

3. 固定式連動スタンション

固定式連動スタンションは、放し飼い式牛舎や放牧施設などで頭数の多い牛群を一度に捕獲することができる。肥育素牛の集団飼育では栄養状態の把握が重要となるが、連動スタンションで育成牛や子牛を一行に係留して成長度合いを比較することもできる。

また、繁殖牛群の管理では発情牛を見逃さないことが特に重要となるが、連動スタンションに係留しているとその発情牛発見が極めて容易となる。もし発情が微弱であったりしてもスタンションに係留して直腸検査で種付け適期を判断できる（写真14）。



写真14 牛舎内における連動スタンションの例で各種のタイプがある

放牧場で母牛を連動スタンションに係留して、子牛だけを風雨から守る別飼施設に入れることもできる（写真15、16）。別飼施設の床はコンクリートを張り、乾燥した敷料を十分に入れ衛生的な環境で子牛を保護することができるから別飼施設は子牛の生産性向上に重要な施設である。



写真15 野外の連動スタンション



写真16 子牛別飼施設

4. 移動式スタンション

小規模な放牧地やパドックで簡易に設置したり、移動することのできる5頭程度に係留する小規模スタンションである。

目的によってさまざまな場所に設置できるが、野外ではスタンションの設置場所を固定化すると草地の裸地化や泥濘化が進むので、飼槽や水槽と一緒に一定期間で移動させることが多い。スタンションへの誘導柵には電気牧柵が便利である。暑熱の強い地方では庇陰林の中にスタンションを設けたり、スタンションの上部に庇陰の屋根を設置する場合もある（写真17）。



写真17 小規模移動式スタンション（左）と子牛の休息所（右）

沖縄県畜産研究センターで展示している事例では、飼槽を付帯した移動タイプの連動スタンションが配置され、発情・妊娠確認や人工授精を容易におこなうことができる。また、子牛専用草地がこのセンターのそばにあり、庇陰施設や子牛が雨で濡れないように高床スノコも設置されている。

（細川吉晴）